J. C. O. S. M.

Vol. 14, No. 4 (July 1984)

全科協ニュース

1984年7月1日発行
(通巻第78号)
全国科学博物館協議会
東京都台東区上野公園
国立科学博物館内
〒110
Tel. 03-822-0111(大代)

おもな内容：◇サドバリーのサイエンス ノース　科学技術館　山田英徳　◇新装なったプラネタリウム——二度目のオーバーホールを終えて——　市立名古屋科学館　◇セラミックスの科学（企画展）　豊橋市地下資源館　◇星空に夢と希望と感動を……生駒山宇宙科学館　◇新しい展示品の紹介　交通博物館　◇全科協の理事会，総会の開催　◇会員館園の紹介　九州エネルギー館

〔海外の博物館〕

サドバリーのサイエンス ノース

科学技術館　山　田　英　徳

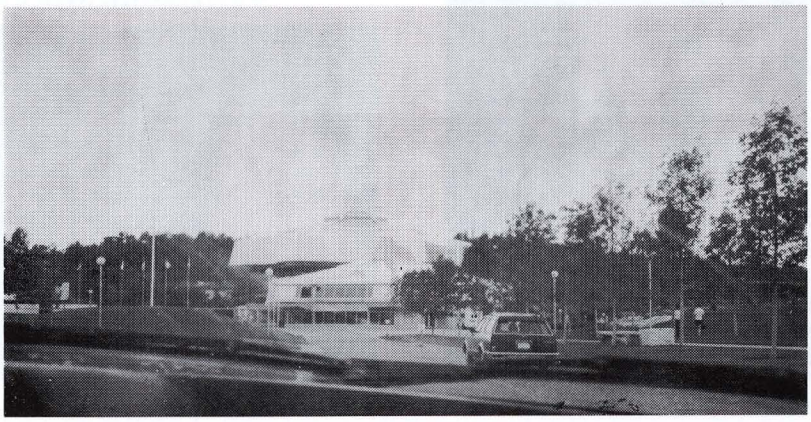
6月下旬，アメリカ，カナダの科学博物館を視察するツアーに参加し，一部のメンバー共々，カナダ・オンタリオ州サドバリー市に新しくオープンした「サイエンス ノース (Science North)」を訪ねたので，その概要を御紹介する。

サドバリーは，主としてニッケル鉱を産出する世界的に有名な鉱業の町である。ここに新しいタイプの科学センターを設置する構想は，1980年5月，鉱山会社INCO㈱がそのための研究費を拠出することによってスタートした。当初は1983年にオープンする予定であったが，建設資金，運営資金などの都合により，およそ1年遅れ1984年6月にオープンしたものである。

立地条件を生かした建物

サイエンス ノースは，サドバリーの町の南 約1マイル，静かで美しいラムゼー湖のほとりに建てられている。しかも，その湖を見渡す，巨大な一枚岩盤のうえに建てられているのである。

建物の基本的な形は，六角形をした雪の結晶で，北国の自然環境を象徴している。同じような形をしたエントランス ビルディングとメイン ビルディングは，約40mの地下トンネルで結ばれている。この岩盤や地下トンネルは，単に建物の立地的な特徴づけとなっているのではなく，サイエンス ノースの活動の主要なテーマとして，むしろ，なくてはならない条件となっているように思われる。つまり，この岩盤の生因，巨大な爆発を物語る根跡，隕石との衝突跡，氷河作用による傷跡，地震によってもたらされたと思われる断層，豊富な化石等々，悠久の地球のさまざまな出来事をこの岩盤が鮮やかに証拠立ててくれるものであり，科学する心をかき立てる絶好の



サイエンス
ノース入口

素材となっているのである。

こうした興味深い岩盤の上に建てられた六角形の建物の中は，科学をテーマとしたコミュニティー空間として，たくさんのユニークな小イベントが繰り広げられている。

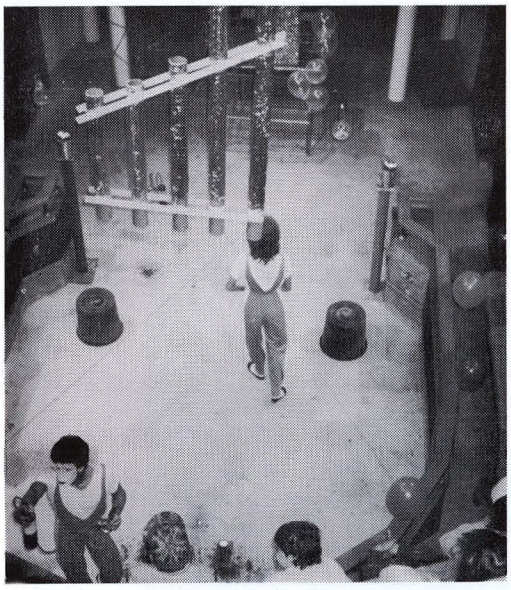
3D映画とセンターシアターショー

まず，メインビルディングの下にある岩は，大きくくりぬかれ巨大な洞穴となっている。この中がなんと約200人を収容する3D（立体）映像ホールとなっているのである。上映される3D映画はオンタリオ北部の動植物群を鮮かにとらえたものであり，奇をてらわず自然環境の魅力をたっぷりと味あわせてくれる。

ここを出て，岩をくり抜いた通路を上ってゆくと展示ホールがある。ホールは中心部が大きく吹き抜けていて，その部分がセンターシアターショーの場として位置づけられている。ショーを見るための急傾斜の観客席がとり囲むように配置されているが，さらに各階の展示スペースからも，思いおもいにショーを見物することができる。

ショーは顔に真っ白な化粧をし，道化師のような格好をした2人の若い男女がパントマイム風に進行させる。観客を早く席につくように誘い，おどり，笑わせながら登場してくると，周囲から拍手が起こる。そこで2人は，科学の楽しい実験を表情豊かに，時には奇声を発しながら楽しく見せてゆくのである。

無害の木の花粉を，空気の入ったフレームの中で爆発させるようなこと，小型ガスボンベを使って吊り下げられたフラスコの水をあたため，噴出する蒸気の力でフラスコを回転させる実験，ガスボンベの炎をさまざまな長さのパイプにさし込んで音を発生させる実験などその軽妙な身振り手振りで進められる科学実験の新しい試みは，とかく堅くなりがちな科学展示に新たな挑戦をしているか，のようである。説明のまったくない，こうしたショーを見て，観客の心の中に湧き起こった疑問や興味は，建物の外壁に沿って設けられている展示回廊の中のワーキングラボラトリーといくつかのミニシアターによって解決される。



センターシアターショー

ワーキング ラボラトリー

センターシアターショーを取り囲むように，六角形の建物の外壁に沿うかたちでさまざまなカウンターが軒を並べているのが，この館のメインともいえるワーキングラボラトリーである。ちょうど祭りの夜店をお客が見て歩く風情よろしく，動線に沿って連なったカウンターの中では，それぞれユニークな実験や展示物があり，これを見たり，触れたりしながら見学するのである。扱われているテーマは，これまたさまざまである。ライフサイエンス，人間の動作，コンピュータ，電磁気現象，メカニクス，天文学，地球科学，北国の生活圏……。

生活圏コーナーの1つのカウンターをのぞいてみる。

生きているヘビにさわってみる

昆虫について説明するスタッフ

熟練した親しみのあるサイエンススタッフが，北国のヘビ，ナナフシ（もちろん生きている！）を子供たちにさわらせ，持たせている。ガラスケースの中には，あの毒グモ，タランチュラもうごめいている。床に無造作に置かれたオオカミの剝製は迫力満点な表情だ。サイエンススタッフはこうした動物や昆虫を通して北国の自然の特徴，現状，魅力を雄弁に語り，子供たちの興味をかき立てようと一生懸命であった。

また，ほかのカウンターでは，家畜動物の眼を解剖しているカウンター，化石さがしを観客に指導しているカウンター，クジラの標本づくり，コンピュータ制御によるロボットの実演カウンター。なんとさまざまなテーマであることだろう。そして，こうしたカウンターがいったいいくつあったことだろう。私たちが訪問した時は，まだ未完成のカウンターもいくつかあり，全体の完成はしばらく先のことになる，とのことであった。

このワーキングラボラトリーと呼ばれる沢山のカウンターは，サイエンス ノースの専門スタッフを中心とし，周辺地域の産業，大学，高校，医療センター等，現場の専門家，学生たちと検討しながら，テーマ，その展開方法などが決められ，その運営も現場の彼等が実施するところに大きな特徴がある。つまり，科学技術をテーマとした，サイエンス ノースを核（コア）とする地域コミュニティーの場，それが新しいサイエンスミュージアムの姿として登場したわけである。

おわりに

米大陸北端に誕生した新しい方向を指し示すサイエンスミュージアムを，私は心から歓迎したい。そしてこの館が，有名なオンタリオ サイエンスセンターをつくった三明泰三氏とレイモンドモリヤマ氏のコンビによって生まれたものであることを報告し，喜びたい。

いま日本でも全国各地に科学館や科学センターが続々と生まれている。しかし，地域と密着した真の活動，となるとなかなか思うようにゆかないのが現状であろう。サドバリー サイエンス ノースは，その意味できわめて貴重な実験を行おうとしている場である。

すばらしいデザインの展示があるわけではない。しかし，すばらしい人間同志のコミュニケーションが見事にデザインされている，と見てよいのではないか。今後，このサイエンス ノースが発展するためには，世界中の注目を浴びる必要がある，と三明氏は述べている。カナダのトロントから飛行機で約1時間，お出かけの節は是非立ち寄られることをお薦めしたい。

〔新しい展示〕

新装なったプラネタリウム——二度目のオーバーホールを終えて——

市立名古屋科学館

市立名古屋科学館のプラネタリウムは，1月16日から3月31日までの約2か月半にわたり，開館以来二度目のオーバーホールを行った。今回はこの間に，新しい補助投影機の設置，座席の取り替えと床のカーペット貼りなど，ホール内装の改修を合わせて行い，雰囲気の刷新をはかった。新装後の入館者アンケートの結果をみても，評判は上々のようである。

今回新設された補助投影機のうち，イメージ向上に大きく貢献した「青空投映機」と「マルチスライド・プロジェクター」について紹介したい。

青空投影機

この装置は，ドーム天井スクリーンを青色光で照明し，青空の雰囲気をかもし出すものである。各メーカーから既製品も出されているが，今回導入したものは，当館で独自に設計したものである。

使用電球はハロゲン100V－500W・アッパーホリゾン

青空投映機

サイリスタ調光装置

トライト（舞台照明用で，本来は上方から下向きに照明するタイプ）で，これをドーム地平ライン周辺8か所に3灯ずつ，計24灯を用いた。アッパー型を地平線から上向きに取り付けることによって，球形ドーム全体をフラットに照明できるよう工夫してある。実際，照明ムラはほとんど感じられず，満足のいく結果が得られた。

青色光に変化をもたせるために，透過率の異なる2種のゼラチンフィルターを用いた。ゼラチンフィルターは熱による退色が激しいので，ガラスフィルターに変更する予定である。

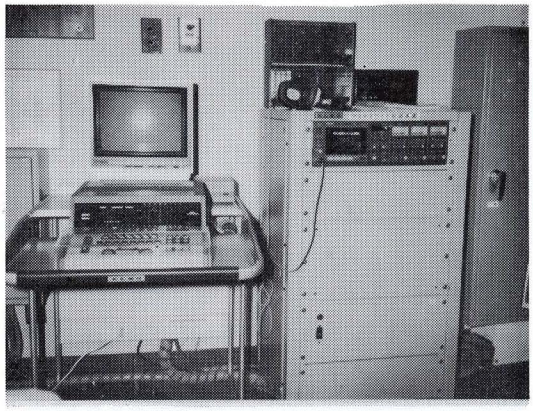
調光装置は既設の8チャンネル×2系統クロスフェーダー付サイリスタ調光装置を使用している。これはテープによる録再可能のもので，従来はプラネタリウム本体下部から，白，青，赤，緑の4色光をスクリーンに投影していた。今回このうちの4チャンネルを青空投影機にまわし，残りの4チャンネルは赤，緑光用として残してある。これらを併用することによって，夕暮れの音楽に合わせて，スクリーンをライトブルーから夕焼け色，そしてダークブルーへと連続的に変化させることが可能となった。

マルチスライド・プロジェクター

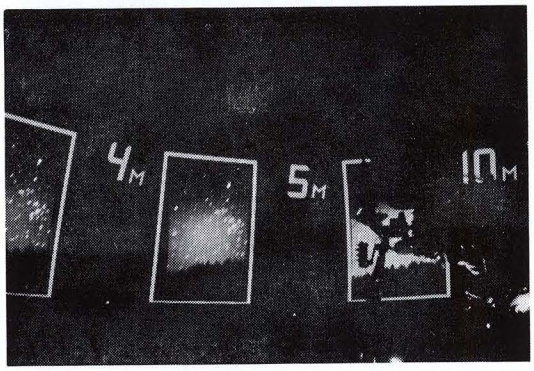
これは，ドーム地平線上にパノラマ映像を写し出す装置である。従来使用していたスカイライン・プロジェクターに換えて装置したもので，地平ライン360°を12分割し，それぞれの画角に対して2台ずつ，計24台の映写機をコンピュータによって制御している。各映写機は80コマ収納のトレイを持ち，計160シーンのパノラマ投影が可能になった（従来機は6シーン）。

点灯・消灯時間は0.1秒単位で自由に制御でき，またコマ送り時間を含めた最短投影間隔は1.4秒である。つまり，対になった2台の投影機を交互に使用すれば1.4秒ごとに画像を順次変化させることが可能となる。映像のフェード時間も瞬時から98秒まで自由に制御でき，ディゾルブ効果を含め，ソフト次第でいろいろな演出効果が期待される。

操作方法としては，テープによる音声との同期（フルオート）のほか，解説者が手元のスイッチでキュー信号を発信して定められたところまでプログラムを実行させ，そこで次の信号を受けるまで待機させる方法（セミオート）および手元のクロスフェーダーとコマ送りスイッチによる手動操作（マニュアル）もできるよう考案した。当館では解説者5名が，見学者の年齢層や雰囲気に合わせて，それぞれ個性を生かした解説を行うようにこころがけている。オート機構のみではこういった特徴を生かしきることが難しいと考え，手動操作も取り入れたわけである。実際，現在フルオートは休憩中のデモンストレーションのみに利用し，解説中はもっぱらセミオート機構として使用している。



マルチスライド制御部



周辺に投影されたマルチスライド

7月のプラネタリウムは星座の固定撮影のおすすめがテーマだが，露出時間を変えた時の星の写り方の違いを説明している。

まず手元のキュースイッチを押すと，高原の景色と擬音と音楽で，星のきれいな高原で夜空をあおぐ雰囲気をつくり，次のキュースイッチで，一転して地平線上に12個の白線ワク（額縁のつもり）が現れる。もう一度押すと額の1つに5秒露出した星座写真が浮かび上がり，さらにスイッチを押し続けることによって10秒露出，15秒露出……というように12種の写真が順次現れる。解説者は話の進行に合わせて，スイッチ操作をするだけで良い。手動のスイッチ操作で間に合わない複雑な操作を必要とするところは各パートごとオートでしこんでおくわけである。

プラネタリウムが機械的にどんどん進歩する昨今，科学博物館に勤務する者としては，それがオート機構であれマニュアル機構であれ，機械に振りまわされて，自分を失うことなく必要な内容の充実に務めねばならないと考えている。

〔特　別　展〕

「セラミックスの科学展」（企画展）

豊橋市地下資源館

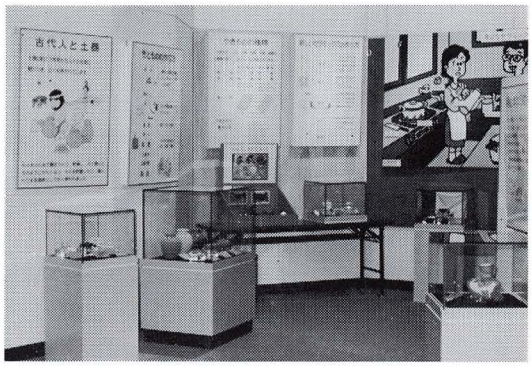
最近注目をあびているセラミックスについて9月30日まで企画展を開催している。ねらいと特徴は以下のとおりである。

- 身近なやきものがセラミックスの仲間であることを理解し，科学技術の進歩により，すぐれた特性をもつ新しいやきもの(ニューセラミックス)が，すでに身のまわりの製品に使われていることを紹介する。
- 今までのセラミックス関係の展示会は，一般や専門家対象のものがほとんどであった。今回は子供を対象にやさしい解説で，実験装置の操作を通して楽しみながらセラミックスの特性を理解できるよう展示する。

企画展示予算額は85万円で，大部分を展示台と解説パネル製作についやした。展示物については，出品を検討いただいた約9割の関係企業等の積極的な協力があり，この業界の活力が感じられた。出品していただいた企業は，名古屋，瀬戸，豊橋がほとんどで，直接担当者に会って話をうかがった。各企業は独自に解説パネルを持っているところもあったが，今回は対象を子供中心としており，また各展示のバランスをとるため，パネルのイラスト，解説文等は館側で作成した。ラベルは一品ずつ名称だけでなく，その性質，用途がわかるよう48字以内で解説し，文字にはワープロを使用した。

展示コーナー

- セラミックスってなに？
- せとものの作り方



- セラミックスにさわってみよう
- 新しいセラミックスの作り方
- 身近なセラミックス
- いろいろなガラス製品
- 光ファイバー
- 炭化珪素繊維
- 人工結晶
- 炭素繊維
- 陶　歯
- 陶　紙
- 実　験
- 映　像

展示の目玉は，館職員の手作りによる9種類の実験装置である。楽しく，具体的にセラミックスの特性を理解するには，手を使って実験操作するのが一番であり，印象にも残るようである。小さい子供たちに人気のあるものは，手をたたいた音で人形の鬼を動かすようにした圧電体の実験である。実験装置にはそれぞれ実験方法と解説（100字以内）をつけた。

実　験　装　置

タイトル	実験素材
音を感じる	セラミックスのマイク（音声スイッチ）
セラミックスのはさみ	はさみ（紙切り）
セラミックスの硬いボール	球石（衝突）
セラミックスのスピーカー	スピーカー（メロディー音発生）
セラミックスにさわってみよう	陶磁器類，ニューセラミックス
セラミックスのかみなり	圧電素子（放電）
魚群探知器	〃　（超音波測定）
湿度しらべ	湿度センサー（湿度測定）
お店番	赤外線センサー（体温検知）

小規模の企画展ではあるが，「楽しい展示でわかりやすい」と好評を得ている。　（家田健吾）

会員館園の消息

星空に夢と希望と感動を……

生駒山宇宙科学館

当館は，本年10月3日で開館15周年を迎える。そこで，15周年記念事業として，この3月からプラネタリウムの本格的機種への改良をはじめ，6月末に完成した。

プラネタリウムといえば，ここ数年飛躍的に増加している。特に東京・大阪近郊では，行政のモニュメント的事業として異常な増加率のようである。そのため，既設の館園が圧迫を受けている所もあるようである。

プラネタリウム導入の話が持ちあがると最初に問題になるのが，ドーム直径と機種の選定である。次に，オートかマニュアルか？ということであるが，実は，これは逆の問題であると思う。最も大切なことは，解説者と入館者との触れ合いの問題であるべきである。プラネタリウムという媒体を通して「自然教育」，「科学教育」を行う。さらに「宇宙に関心を持った子供づくり」を行うべきであろう。

そんな意味で，我が館の姿勢は，美しい星空を見て「夢と希望と感動」を持った社会づくりの一助にしたいという企画で臨んでいる。　　（館長　濱根　洋）

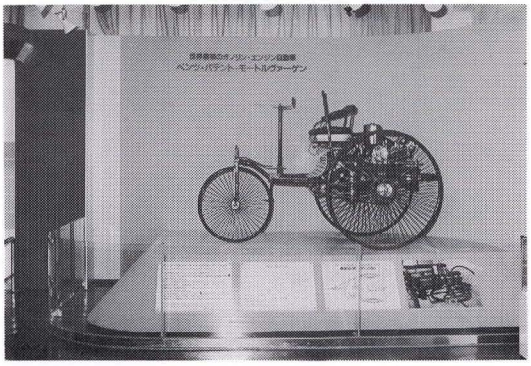
新しい展示

ベンツ・パテント・モートルヴァーゲン（レプリカ）

交通博物館

このほどダイムラー・ベンツ㈱〔西独〕より当館に，世界最初のガソリン・エンジン自動車であるベンツ・パテント・モートルヴァーゲン（レプリカ・実動車）が寄贈され，自動車部門で常設展示を開始した。

同車は，ダイムラー・ベンツ社が過日開催されたドイツ博 '84に参加，この記念に寄贈されたもので，今回特に同社訓練生がオリジナル図面を基に完璧に複元製作を行ったものである。



当館では常設展示に先立ち，引渡式と特別公開を行い，入館者の前で自力走行を実施した。1885年にカール・ベンツが製作し，自ら時速15Kmでマイハイムの町を走行して人々を驚かせた単気筒984ccのエンジン音を轟かせ中庭を快走，100年前の情景を再現した。

このベンツ・パテント・モートルヴァーゲンの実物はドイツ博物館（ミュンヘン）に保存・展示されているが，レプリカもわずかにダイムラー・ベンツ博物館とスイス交通博物館（ルッツェルン）に展示されているにすぎず，資料価値の高いものである。

今日の自動車の祖である同車の展示で，当館自動車部門の展示が充実したにとどまらず，世界第2位の自動車生産国である我が国にとっても貴重な資料として，末永く教育普及に役立つものと確信している。

（展示課　和田由紀夫）

「わたしたちのしぜんはくぶつかん」の刊行

和歌山県立自然博物館では，展示解説第集として小学生向きの「わたしたちのしぜんはくぶつかん」を刊行した。B5判56ページの本書は，子供たちが大切に本棚に入れておきたくなるようなハードカバーで絵本のスタイルがとられている。内容は，展示室の紹介を兼ねながら，和歌山県の自然について興味深いテーマで説明され，2色刷りの楽しいイラストが理解を助けてくれる。博物館の出版物としては異色のもので，これから印刷物を企画する場合に参考になる点が多いと思われる。

入手を希望される方は，頒価500円に送料250円を添えて申し込んでいただきたい。

〒642　海南市船尾370—1　和歌山県立自然博物館
電話（07348）3—1777

〔新入会〕

○福井県立博物館　　館長　杉原　丈夫
〒910　福井県神井市大宮2—19—15
電話（0776）22—4675

○神戸市立青少年科学館　　館長　佐野雄一郎
〒650　兵庫県神戸市中央区港島中町7—7—6
電話（078）302—5177

〔人事異動〕

○放送文化館
新事務局長　池田　達（毎日放送取締総務局長兼任）
前事務局長　北尾正康（放送文化館顧問）

全科協の理事会，総会の開催

6月27日（火）昭和59年度全国科学博物館協議会の理事会及び総会が国立科学博物館大会議室で開催された。出席館は40館，委任状提出館は25館であった。

はじめに諸澤正道理事長から挨拶があり，続いて理事会と総会を同時に開催することに了承が得られた。さらに会員加入状況の説明後，議事に入った。

理事館，監事館及び理事長館は，現行どおり，次の館にお願いすることになった。

理事長館……国立科学博物館，理事館……愛媛県立博物館，ＮＨＫ放送博物館，大阪市立自然史博物館，科学技術館，神奈川県立青少年センター，交通博物館，五島プラネタリウム，斎藤報恩会自然史博物館，佐賀県立博物館，市立名古屋科学館，逓信博物館，富山市科学文化センター，鳥取県立博物館，御園高原自然学習村，室蘭市青少年科学館，監事館……アリタキ・アーボレータム，電気通信科学館

昭和58年度事業報告（研究会・講習会の実施協力，機関紙の発行，海外の科学系博物館視察研修旅行，会員館相互の協力事業，科学系博物館に関する普及広報），昭和58年度収支決算が事務局から説明され，監査報告の後一括承認された。収支決算の概略は次のとおり。

（収入の部）		（支出の部）	
繰越金	32,038円	事業費	1,033,000円
会員会費	951,000	事務費	438,530
雑収入	408,709	予備費	0
寄附金	100,000	繰越金	20,217
計	1,491,747	計	1,491,747

昭和59年度事業計画については，次のような計画案が説明され，収支予算案とともに承認された。

1. 研究会，講習会の実施協力
   (1) 第14回全科協事業研究会を「展示の基礎―展示の広報」に関する研究テーマで，年度末に実施する。
   (2) 昭和59年度博物館職員講習（国立社会教育研修所主催）に対して協力する。
2. 機関紙の発行
   「全科協ニュース」を年６回発行する。
3. 標本資料の斡旋
   ニホンカモシカの骨格標本等の配布を斡旋する。
4. 会員館園相互の協力事業の実施
   会員館園が実施する移動展，標本資料の貸借等に関して相互に協力し，実施する。
5. 海外の科学系博物館視察研修の実施準備
   昭和60年９月から10月頃，12日～14日間の予定でアメリカ合衆国，カナダの科学博物館を視察する研修旅行が実施できるように具体的な準備を進める。
6. 科学系博物館に関する普及広報
   全国科学博物館に未加入の科学系博物館に対して入会の勧誘を行う。

昭和59年度収支予算の概略は次のとおりである。

（収入の部）		（支出の部）	
繰越金	20,217円	事業費	1,077,000円
会員会費	1,238,000	事務費	501,820
雑収入	470,150	予備費	249,547
寄附金	100,000		
計	1,828,367	計	1,828,367

東レ理科教育賞の応募について

東レ科学振興会では，理科教育向上の一助として，創意と工夫によって著しい成果をあげた理科教育の事例を毎年募集し，東レ理科教育賞として褒賞している。第16回にあたる今年度分も10月15日締切り（必着）で応募を受け付け中である。

応募対象となる教育事例は，中学校・高等学校の生徒などの理科教育上，「新しい発想と工夫考案に基づく」次のような事項である。

①生徒の科学に対する興味を高めるなど，よい環境をつくる指導展開のしかた。

②種々の実験法，器材の活用法，自発的学習の方法など。

③実験，観察，演示などの教材・教具（簡単な装置，得やすい材料，映画・ＶＴＲ・スライドなど）。

これらは，科学博物館の職員が教育活動を実施するに当たって日ごろ考え悩んでいることであり，応募に値する事例は相当あるのではないかと思われる。ただし，論説や提案だけではなく，実績が必要とされ，博物館が主催するクラブ活動のような場合には，特に生徒の人間形成にどのように役立ったかが求められている。

なお，所定の応募用紙は，電話またははがきで下記あてに申し込んでいただきたい。

〒103 東京都中央区日本橋室町２―８（三井６号館）
財団法人　東レ科学振興会　☎(03) 245―5919

あとがき

○今年度は，次の方々に本ニュースの編集委員をお願いすることになりました。
石川博幸（府中市郷土館），市橋邦男（神奈川県立青少年センター），岡本克子（電気通信科学館），落合善郎（東京都児童会館），佐藤美知男（交通博物館），半田昌之（たばこと塩の博物館），増沢　等（五島プラネタリウム），山田英徳（科学技術館），大堀哲（国立科学博物館），杵淵政明（同）

○本年６月に新しく開館したばかりのサイエンスノースについて，山田英徳氏に執筆していただきました。この新しい科学館をはじめ，北米の科学系博物館の視察研修旅行を昭和60年の秋に計画することが総会で承認されました。この計画を成功させるために，各会員館においても予算要求等の準備が必要と思われますが，実施時期，訪問先など具体的な御希望がありましたらお寄せください。（事務局）

会員館園の紹介

明日のエネルギーを考える広場

九州エネルギー館

当九州エネルギー館は，昭和57年11月3日に，わが国初の総合エネルギー館として開館し，さる6月20日（開館日，474日目）に，30万人目の入館者をお迎えした。

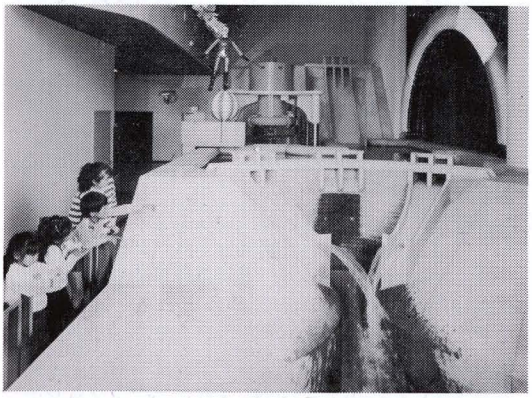
「エネルギー，それは人類に愛と希望をもたらしました。ここは明日のエネルギーを考え，科学する心を育む広場にと願っています」という永倉三郎会長のごあいさつを館内に掲げているが，これが当館設立の意義をひと言で表現した言葉と考えている。

当館の特徴は，次の通りである。

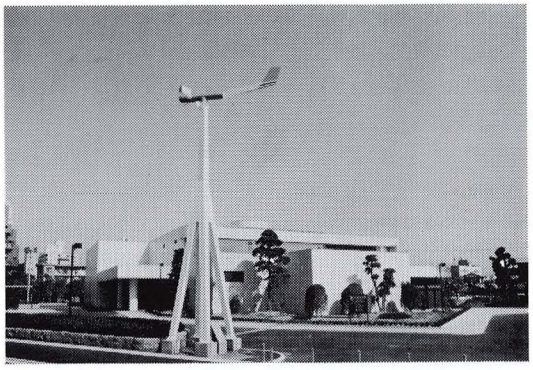
まず，展示可能なものは極力実物を配置した。実物には，やはり迫力があり，来館者の触覚に訴えることで親近感も一層強まる。また，展示物はなるべく動きのあるものにするとともに，来館者が直接参加できるように観客参加型装置を多く取り入れるようにした。展示の表現は，中学2年生が理解できる程度にわかりやすくしているが，それ以上に学ぼうとする人のために，展示の奥行きは深くしている。このように九州エネルギー館は，単なる展示館ではなく，社会教育施設としても恥かしくないものであると自負している。

当館の展示物には数々の特徴があるが，その中から特に人気のあるものを紹介すると，まず第1は，小型揚水発電所である(水力発電ショー)。これは科学館，展示館の中で実際に揚水したり発電したりするのは，世界でも初めてのものだと言われている。上部ダムと下部ダムは2mの落差があり，約500ワットの発電をして，この電気でピエロが踊り出す。

次に水力発電に並び大型展示として，玄海原子力発電所3・4号機の実物大原子炉模型がある。原子炉の両サイドにスクリーンを設け，8台のスライドで原子力の物語から始まるショーは，原子力シアターと呼ばれるのにふさわしい展開を見せてくれる。このほか，館内200種類の展示物は，エネルギーの過去・現在・未来を多彩な展示で興味深く見ていただいている。



水力発電ショー



九州エネルギー館全景

また，屋外展示物として，風力発電装置と太陽光発電装置を設置しているが，これによって発電された電気を館内に運んで，ピエロの目玉を回転させる。屋外にはさらに，水力発電所や変電所で長年使われていた実物の水車発電機と特高用変圧器を中の構造がわかるように一部をカットして展示している。最近，火力発電所のタービンが仲間入りして屋外展示場は一層充実してきた。

次に当館の付帯設備を紹介すると，子供たちが自由に勉強できる図書コーナーとビデオコーナーを設けている。図書の利用は予想を上回り，学習室はいつも勉強している子供が見られる。マイコン教室は時代を反映して超人気である。電気実験教室も手づくりの工作をする関係からか，子供が生き生きと取り組んでいる姿が印象的である。両教室とも半年先まで予約で満員である。230名収容の小ホールや日本庭園に面した多目的ホールは，講演会や映写会，展示会など地域の方々に積極的に利用していただいている。

私たち館員一同は，エネルギー需給へのコンセンサスの成立を求めることは勿論であるが，それと併行して大切なことは，来館されたお客さまが“楽しかった，よかったな”，そして“ためになった”と気持よくお帰りになっていただくことと念願して，今日もお客さまをお迎えしている。　（館長　三苫　學）

所在地　福岡市中央区薬院4—13—55

電　話　(092) 522—2333